
CLANNAD
－クラナド－
オフィシャルコミック 3
原作:KEY
漫画:みさき樹里
CR COMICS

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック 3



原作:KEY

漫画:みさき樹里

CR COMICS

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック 3



Contents



第13回（だい かい）
～interlude～




何コレ?
誰かの忘れもの…でしょうか…
昨日までこんなのなかったの
…ちょっと開けてみよっか?
だ…だめだと思います
あ



…すみません
それ
私のです…
ぱかっ
おおーっ
ヴァイオリンじゃない！
…よかったら
少し
弾いてみますか？
修理に出してたのが
返ってきたんです
教室は目立つので
少し空き教室に
置かせてもらおうと
思って…
確かに
ここなら
あたしたち以外
誰も来ないわね
そうですね



いいの？
ぱぁっ
はい！もちろんです
ことみヴァイオリン弾けるんだ？
すごいです ことみちゃんっ
えっと…少しだけなら
もじ…
わかんないわよ～ なんてったって全国レベルの天才なんだから
ことみさん どうぞ
…準備はいいの
スッ…


へぇー…
ちゃんと サマに なってるじゃない
ことみちゃん カッコイイです
それじゃ よろしく お願(ねが)いします
ペこ
パチ パチ
パチ
すぅ



ギーやんっ
ギーぎゃん
ぎゃぎゃぎゃぎゃっ
ぎゅおおおおおおんんん


うっとり。。。
ご清聴ありがとうございました
ペコリ。。。
とっても素敵なヴァイオリンだったの
そ…そうですか…ありがとうござ……っ
たっ仁科さ…っ
気をたしかにっ!!
うう…
なんだ なんだ? 今の怪音はっっ!?
ぐ!…


すみません…なんでもないんです…
気を付けろよ
チッ
びくっ
キッ
こ〜と〜み〜
…まぁいいわ…
それ返しなさい
——…
…でも
じり
じり
でもじゃないのっ
いいから被害者が増える前に返しなさいーっ
〜〜〜っっ
…何やってんだお前ら…
あ岡崎くん
〜〜〜っ
朋也っ！ちょうどいい所にっ



——で
一体何がどうしたってんだ
それはこっちが聞きたいわよ
あの…私は別にこのヴァイオリンを貸しても——…
ダメよっ
仁科さんも聴いたでしょ？死者が出るわよ!!
…お姉ちゃん…ちょっと言いすぎかも…
杏ちゃん…ひどいの…
な 何よっ!! じゅうぶん凶器になりうるわよっ!!
——ことみ
本当は誰に聴かせたいんだ？


いるんだろ？
……
…朋也くんと
渚ちゃん…
え!?
コク
だから…
ことみ…
とっても素敵なヴァイオリンだから…
とっても元気になると思うの…
朋也…本当に死者が出るわ…
マジか…


あ――…
いいか ことみ…
その気持ちは わかる 嬉しいぞ
なっ
じゃあ りえちゃん――
ダメだ 仁科! 死守しろっ
朋也が 渚の分まで 聴くって事でしょ?
はぁ!?
…朋也くん
いや だからな 俺は その気持ち だけで十分――…
つまり 要するに――…


おま…っ!?
なんつー事言って…!!
しゅっ
たたっ
だって ことみが かわいそうじゃない 聴いてあげなさいよ
お前が それを言うかっ
朋也くん…
くいっ
よろしく お願いします
……!!
ご清聴 ありがとう ございました
熱いぜ… ことみ…!
うっとり
ぎゃおおお～ん
ぎょーいいいいいいっっっ
なんで僕まで

第14回
～その先にある想い～




ヤンキーは帰れ!!
やめろ
…なんだ?
一体(いったい)何(なに)が起(お)こった…!?


ポスターの再発行…？
どうして？
理由によっては認められない
その…今朝 通りかかった所はがされていました
これでは不利になりますのでお願いします
………
そんな…一体 誰が──
仕方ない
ポン
生徒会
特例です
次回から気を付けてください
はい ありがとうございます


理由は明白だ
ガラガラ
ピシャン
数日前に私が起こした乱闘騒ぎ
あれで過去の私を知る人間が書いたのだろう
そのままのイミ
DQN wr
やめろ
――こんな事で
あきらめるわけには
いかない…
私が生徒会にこだわるのには理由がある
校門に並ぶ桜の木は切られる事が決定していた
ギュッ…


そして数年前の私はとにかく荒れていて
自分の身を犠牲にしてまで私の目を覚まさせてくれたのは弟だった
ねえちゃん 桜綺麗だね
あの桜並木は残さないといけないんだ
その為には生徒会に入って その決定を変える必要がある
――ねえちゃん？
ビッ
それまた貼るんだ？
住井義晴
梅木詩子
え…


誰だ…?
どうせまたラクガキされるのがオチだと思うけど
悪いね
俺朝早かったから見て知ってる
さらり
……!!
なんだ…こいつは——…
見た奴多いと思うよ 俺の他にも人いたし …外したのは見てないけどね
それより 酷い事書いてあったろ? あれって本当の事なの?
な
なぁ?


……おおむね
本当の事だ
へぇ
工業の奴らを学校閉鎖に追い込んだ張本人とか坂上智代最強伝説とか…
おおむね本当なんだ
夜露死苦!!
まて…いくらなんでもそこまでやってないぞ…
最強伝説…
あ そうなの?
そうだ
せいぜい学級閉鎖だ…
ふーん でも完全に否定はしないんだな
別に
…何が言いたい
あんた これから大変だろうと思ってさ


わかりきった事だ
翌日——…
噂は学校中に広まっていた
——で相当ヤバかったらしいよ
ヒレ…
うそ～マジで～怖くないそれ
——あ ホラ あの人だよ
わ 聞こえるよ～
あのポスターを見たのか…
多少尾ヒレは付いているものの私が荒れていたのは事実だ
否定して回る気にはならなかった——…
ハア…
にしても疲れる…
まだ言ってんのかオマエ
だって智代だよ!! オカシイでしょっ!?


あいつ 本当は男に決まってるねっ
取り外せるおっぱいとかあんじゃん!? アレでごまかしてるに決まってるよ!!
ねぇよ んなモンは
プチッ
私は女だっっっ!!!
春原 お前の後ろに本人が――…って遅かったか…
もっと早く言いましょうねぇっ!?
こんにちは坂上さんっ
あの…
わたしは女性だって事ちゃんとわかってますからっ!!
…ああ… ありがとう…
もういいって
――あ…
そういやお前…
聞いたけどさ…
ドキ…



真面目にあんなのになりたい奴が近くにいるなんてな…
もう始まってるんですよねっ本当に凄いです…
あ ああ…
生徒会長っての…アレ本気だったんだな…
またまたー冗談言うなよ岡崎っ
誰が生徒会長なんだよっ
本当です坂上さんが…
ええええーっっ
声にならない悲鳴をあげるな
ーーそうか
古河さんたちは知らないんだな…


わたしたち
みんな
応援してますからっ
コラコラッ
勝手に
決めるなっ
――え
…言ったろ?
生徒会なんざ
寒けがするって
関わりたく
ないんだよ
俺は
――ありがとう
その気持ちは
もらっておくぞ
古河さんも
練習
頑張れよ
はいっ
おいっ
聞いてんのか
人の話っ!


——危ない…言ってしまう所だった
生徒会に入るのは手段だと
…実際話した所であいつらならきっと手を貸してくれる
でも だからこそ今は話すわけにいかない
古河さんも岡崎も私もそれぞれ夢があるように
ゆずれないんだこれだけは


ヒソ…
否定したら
いいんじゃない？
ザワ
ザワ
やぁ
…また
お前か…
というか
勝手に座るな
だとしても
一緒に食事する
理由はない
ガタ
ま～ま～
顔見知りだし
1回くらい
いいだろ？
なんで？
ひとりなんだろ？
…いつ
顔見知りになった
俺の事
憶えてたろ？
立派な
顔見知りだ



——……
ガタッ
人の顔を憶えるのが得意なだけだ
一度見た奴は忘れない
へぇ 凄いな 俺は苦手だ
人は 一度 記憶した事は そうそう 忘れないという事だ
ちょ…
お前の事を言ったんじゃない
どういう意味!?
確かにうっとおしいが
——特に 良い事よりも 悪い事はな
…ま そうかも しれないけど
結構 いい加減だと 思うけどね
…そうだな


なら——
これから
あんたは
どうする?
このままじゃ
2日後の選挙
まずいと思うぞ
汚名返上だ
…簡単に
言うな
どれだけの事か
わかってんのか
でも私には
そうするしか
ないからな
2日後だぞ
…なら
どうしろって
言うんだ
お前は…!
——俺
いい考えが
あるんだけど


とりあえず放課後さグラウンドに来いよ
？
野球部主将だっ!!
勝負するというのはお前かっ!!?
え…
そうそう こいつ女だけど構わないよな？
へっ…面白い…
負けたら1年雑用としてコキ使ってやろう
ああ望む所だ
ちょ…ちょっと待て!!
来いっ!!
いててて!!
ひっぱるなっ



――要するに
あんたは投げるだけ
相手に打たれなきゃ
勝ちだ
簡単だろ？
そういう事じゃ
ないだろう…
そうかね？
…まったく
どうして
こんな事しないと
いけないんだ…
？
バカバカしいと
言ったんだ！
選挙の事と
なんの関係がある⁉
私は帰るからな
――いいか
これはスポーツだ
暴力とは
無縁の――…
これ以上
ないってくらい
健全なものだ


――別に やるやらないは あんたの自由さ
でも 今の状況からして
悪い噂を 無くすには 結構有効だと 思うけどね
――……
――言っとくが…… 野球なんて 本当にやった事 ないんだぞ…
あんたなら 大丈夫だよ 思いっきり 投げるだけだ



ザッ
準備はできたのか
ああ いつでも いいぞ
てっきり逃げ出したと思ったぜ なぁ？
どっ
ピピキッ
プルプルプル
ギャハハハハ
思いっきりド真中に投げてやれよ
アハハハ
ピー
了解だ
プレイボール！


女なんのマネか知らんが
お前の無謀なチャレンジに免じて主将の俺が相手してやろう
ちゃんとキャッチャーまで球を届かせてくれよ?
あんっ
主将〜っ あんまオドしちゃかわいそうっスよ〜
どっ
ギャハハハ
一発ホームラン決めてくださーい
ピッチャービビってる〜
ギャハハハ…
…ふん
面白いじゃないか…
ザッ
ザッ
打てるものなら


打ってみろ!!
ビュッ!!
うお…っ!?
うわあああ
ストライクッ
パアアアア
…あ…
しん。。。



…なんだ？今の球…
150km/hは出てたよな…
ザワ
ザワ
おい…素人って言ってなかったか…？
ああ…しかも女だ…
くそ…っ
今のは少し油断しただけだっ!!
これからは本気で行くぞっ
来い！女っっ!!
うおお！主将が立った！
さすがっス！しびれるっス!!憧れるっス!!



ストライクアウト！
ゲームセット!!
うおおおおおおお
ボーゼン…
…負けた……
しかも女に……
スゲーよ
あんたっ
やんや
やんや
しかし
投球 スピード
コントロール…
どれをとっても
申し分ない…っっ
ゴクっ
うおおおおお
頼むーーーっ!!
弱少部のウチに
入部してくれっっ!!
べたっ
え!?


お前らもつっ立っとらんで頼まんかぁ――!!
ハイッ ハイ!
ご指導御鞭撻の程お願いします!!!
う…
…私は女だ…
お前ら坂上は生徒会長に立候補してるからな
憶えとけよ
行くぞ
…これで良かったのか?
ああ
あいつら絶対あんたに投票してくれるさ
明日になればこっちの噂でもちきりだ


こんなので本当に噂が消えると思うか?
言っただろ?
結構いいかげんだって
——なんでここまでする?
お前に得な事があるのか…?
…俺は見たいだけだよ
遥か高みをな
遥か高み…?
——…
なんの事だ?
なんでもないさ
それから——…あいつの言つた通りだつた


翌日
私の活躍は
噂となって広まり
おい
聞いたか？
ああー
あの話だろ
昔の話は　すでに
過去のものと
なっていた
ーで　歯も
立たなかったってよ
へぇ
やるもんだなー
いい加減な
ものだ…
なんだか
凄い女だという
噂の勢いは
そのまま
選挙当日を
むかえた
ザワ
ザワ
お前さ
会長どうする？
坂上
だよな
なんか面白そう
だもんな
俺も
ーそして
坂上！


あ
会長――
生徒会長当選おめでとう！
…まあ正直なところ
会長は坂上しかいないと思った
これからはお前が頑張ってくれ
そうそう
早速だが放課後は顔合わせに創立者祭の打合わせだ
これから忙しくなるぞ遅れるなよ
…はいっ！


…俺は
見たいんだ
あんたが
遥か高みまで
行くのが
他の生徒の
手の届かないくらい
遠くまで行っても
俺は　それを見届けたい
あいつの言った事は
さながら　告白のようだった
勝手な
事を言う…
――高み…か
私が望んでいるのは――…


キーン
コーン
カーン
新役員の方はこちらです
…生徒会だったのか…
全然知らなかったぞ
フリーズ
だろうね…あんた会長しか見てなかったからね
やぁ
俺も少しは傷ついたよ
勝手な事言うな


…それに
私が見ているのは
その先だ
満開の桜の下で
あの時
声にできなかった言葉
伝えられずに
残った想い
それだけなんだ
——先？


――ま
これから
ついていきますよ
我らが
生徒会長さん
生徒会長の
坂上智代だ
皆 よろしく頼む
パチ
パチ
パチ
パチ
さぁ
行こう
駆けめぐる
1年
それが どんなに
大切な時間で
どんなに
遠かっただろうか


ねえちゃん
桜…
綺麗だね…
ああ…
綺麗だな
置いてきたのは
たった一言
ひたすらに
進むんだ
その時まで
…お前は
知っていたか?
校門の桜は
切られる
運命なんだって
なんの話…?

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック



――という わけだ
なんか 案があれば 力を貸してくれ 藤林杏！
よろしく お願いしますっ
――と
不良と 言われていた奴は あたしに言った


第15回
~GIRLS SIDE~


4月
あーあ
クラス分かれちゃったわねー
うん…
私はD組で
お姉ちゃんは隣のクラスかぁ…
寂しい？
も…もうっ
子供じゃないから平気だよ
あはは
ーあ
あ〜〜〜っ
椋ってば朋也と同じクラスじゃない
ザッ
陽平もいるわっ
高校最後が問題児とクラスメイトで残念だったわねー…
べ…別にそんな…
残念なんかじゃないです…
ポ
ん？
んんー!?


――……
委員長なんかになったら大変よー？
あ えと はい…
もしかして椋――!?
ん――……ん
…よしっ
わかった!? お姉ちゃんに任せなさいっ！
え
ええ!?
そ そんなんじゃなくって――～
しゅううう
隠さない隠さない♡
椋！頑張れっ
あたしがついてるから
くぅ～
杏～～～


杏っ
!?
あ…れ？
チャイム なったし
あれじゃ ないよー もう授業 始まるよ
珍しいね 昨日 寝不足だった？
あ いや これは——…
気になって 眠れなかったなんて 言えない…
大丈夫？ 具合悪い？
起きてる？
大丈夫よ…
あ… ほらほら 先生来たわよ
ザワ
ザワ
？
変な 杏——
起立——
ガタ
礼
ガタ
おねがいしまーす
着席——
ガタ
ガタ
元はといえば 朋也が全ての 元凶なわけで——


ムカムカ
──そうよ…
いきなりあんなの…っ
だって
それじゃまるで
付き合ってるみたい
じゃ──…
はっ
──いや…
でも あの
朋也に限って…
渚も
そうとうボンヤリ
してるっぽいし…
でも意外と
優しいとこあんのよね
あいつ…
ってか
朋也があんな
フツーにしてるの
見た事ないわよ…
ぐる
…ん？
じゃあ渚が
好きになっちゃったり
するんじゃないの…？
ぐる
それって
要するに
ふたりとも──…
ぐる
藤林!!
──え
なんだぁ？
ちゃんと
起きてるのか
藤林──？
う
すいません…
聞いてません
でした…
クス
クス
あ──もう
最悪──…
また
言われた…



お姉ちゃん!
ガヤ
ガヤ
今日予定なかったら一緒に帰ろうよー
…どうかしたの?
…椋
あたしって今日…いつもと違う?
んー?
別に…寝グセもないしいつも通りだと思うけど
あ
ザワ
ザワ
…やっぱり
あのふたりって付き合ってるのかなぁ…
わかんない——
けど…
ギュウ…
まだそうと決まったわけじゃないわ


…あたし協力するから
それから数日後演劇部が発足した
ふたりが付き合いはじめたって事も——……


朋也くん…
今日もたくさん練習できました
ああ…
それで今日は帰ったらどうするんだ？
もちろん練習しますっ
創立者祭までもう日にちもありませんから
ガクー
だよな
どうかしたん…
あ
杏さん
こんにちはっ
うん今帰り？
ゲ…ッ
杏…!!!
あら〜？朋也も今帰りなのかしら〜？
う…
うっせーな！悪いかっ
かぁっ



それより杏…
お前の足元のそれはなんだ？
ぷひっ
ん――？
ウロ
ウロ
かわいいでしょ？あたしの飼ってるウリ坊
ボタンって言うの
鍋か
あぁっ
どうにかなってしまいそうなくらいかわいいです…っ
まぁ美味そうではあるな…
朋也殴っていい？
殴らないでほしい
たく…
よいしょっ
この子よく学校まで来ちゃうのよねー
なつかれてるから悪い気はしないけど
ぷひ…
なるほど
それで探しててこんなトコにいたってわけか
ん―― それもあるけど



それも？
はぁ？
いいのよ わかんなくて！
じゃーねーっ
ん――…
なんていうか 確認(かくにん)？
なんだって？ あいつ…
わけ わかんね――…
…やっぱ 本当(ほんとう)みたい
…ボタン



あたし
どうしたら
いいと思う？
朋也と
出会つたのは
2年の時
朋也ぁ！
またサボって！
次はちゃんと
出なさいよっ
なんだ
杏か…
あんたがいないと
あたしまで
怒られるんだからっ
ちょっと
きーてんの!?
あたしは委員長
あいつは問題児
面倒のかかる
奴だつた
あー
ハイハイ


杏ってさー すごいよねー
何が？
だって岡崎くんたちと普通に話せるの杏くらいだよ
そうよね〜 怖くないの？
ええっ
怖い⁉ あいつらバカなだけよっ⁉
って言われてもなー
うん やっぱり話しかけにくいよ
安心もしていたと思う
次第に友達になって
ふーん
意外に優しい事とかも知って——


――それで
気付いたら好きになってた
――……
…ふふふっ
ぼすっ
ぷいっ
涼だってあきらめたのにあたしったら…
ばかみたい
彼女ができてからわかってても仕方ないのにね
ほんと…
…ばかみたい…っ
ぷひ…


しあ。。。
ざわ ざわっ
…？
大変だっ仔豚がいるぞーーっ
バカお前ありゃ犬だろ！
え俺タヌキかと思った
なんでもいいから捕まえろぉぉぉ!!!
どどどどどど
ーー…
なんだアレ…
はっ…
ーーまさか…
だっ。。。



あ…杏!!
——てことはっ
…あっ
わ
朋也…
じゃなくって…
大変よ!
ボタンが校舎で迷子にっ
やっぱりか!!
お前な!
ペットの管理くらい
しっかりしとけ!!
悪かったわね!
勝手に
来ちゃったのよっ
このままじゃ
食べられちゃうわ
協力してよねっ!
ギャあ
ギャあ
あたし外!
朋也は中!!
よろしくっ
わーったよ!
昼飯オゴれよー!っ
ボタン—!!
ボタン——っ
どこなの—っ
いたら
出て来なさい〜っ
ボタン〜〜!?


ボタン――っ
ガサッ
――あ
な…
すみませんっ驚かせてしまいましたか?
ぷひ
ぷひ
ぷひ
ぷひ
なんで…?
よかったです…やっぱり杏さんのとこの子でしたか…
ウリ坊違いだったらどうしようかと思いました
ボタン!?
ブルルル…
ぷひっ
ホーッ
ぷひ
ぷひ



わたしが教室に戻る途中で
この子が――
ガバッ
こっちにいったぞー
くそっどこだ
はっ…
この子は杏さんの…!?
ドキドキ
おーいどこだーっ
――というわけで隠れてました
…そっか
かくまってくれたのね ありがと！渚
危うく食べられちゃうところだったわ
ぷひっ!?
――もう バカね…
なんで学校の中にまでついてきちゃうのよ～
ぷひぷひっ


――……
もしかしたら何か伝えたい事があったのでしょうか…
ドキッ
ドキ…
――？
どうかしましたか？
ドキンッ
――…渚
ドキッ
――どうして
……
ざわ…
――演劇部なの？
聞けないってのっ!!


あ…
ほら!!
そういえば聞いたことなかったなーって
…もうすぐ本番だしね!?
ドキドキ
――その
みんなも手伝ってるわけだし…っ
はい
杏さんにはまだ話してないので聞いてほしいです
う…うん!
わたしの夢だったんです
小さい頃から身体が弱くて休みがちで…
学校の行事なんかはひとつも参加した事なかったんです
――え…
みんなでひとつの事を作り上げるってすてきだと思いました
ずっとあこがれてたんです
2度目の3年生でくじけそうになったけど


だから みなさんと一緒に 演劇のよさを 見つけて——…
ちょ… ちょっと待って 2度目の3年生 ってもしかして…
あ… 留年してるんです… わたし…
マジでっ!?
…やっぱり 気になりますよね…
あ だって 全然 結びつかなくて
…最初は 話せる人も いなくて
…すごく 辛くて——
学校の坂道を 登る事すらできなくて 立ち止まってしまったんです …そこで——
朋也くんに 会いました
あんたの楽しい事は ひとつだけなのか？ 違うだろ


そう言ってくれて…
それでわたし演劇部を作ろうと思ったんです
そっか
なあんだ
最初っから入り込める余地なかったんじゃない
…頑張ったのね渚は
いえ…っそんな…
そっかぁ…
あの…
実は わたしも杏さんに話したい事があったんです
ビクッ
ドキ
ドキ
——え…
な…何？


わたしが困っていた時杏さんに助けてもらいました
え…あれ？顧問がどーのって時？
そんな大した事は…
いえ…それ以外にもたくさん応援してくれて…
ぷひ…
その本当に嬉しかったですから
——ずっとお礼が言いたかったんです
ありがとうございました
——…
すくっ
ガバッ
っあ!!
ど…どうしたんですかっ!?
朋也にねボタン探しを手伝ってもらってたのよ
忘れてた
あじゃあ早く教えてあげないと…
そうね行きましょ渚
はいっ


あたしも
お礼に
教えたげる
あたしね
将来保母さんに
なりたいんだ
子供
好きだし
面倒見るのも
慣れてるしね
わぁ
保母さん
ですか
杏さんに
ピッタリだと
思います
――だから
頑張ってる子は
応援したく
なっちゃうのよね
あたし!
それに
友達なんだから
いちいちお礼なんて
言わないのっ!
当たり前
でしょ!?
わ…っ
わかりましたっ


朋也ぁ〜
お——…
見つかったか…って
なんでお前ら一緒なんだよ
悪い?
えへへっ
渚がボタンをかくまってくれてたのよ
そうなのか?
はい
仕方ないか
つーかボタン連れてきていいのかよ…!?
堂々としてりゃ意外と気付かれないものよ!
ぬいぐるみって言ってたら動かないし
ああもう
ぬいぐるみよボタン!
ぷ…
うお
スゲー マジでピクリとも動かねぇ…
ホントにぬいぐるみみたいにかわいいですっ


簡単にあきらめきれるわけじゃないけど
今の感じも悪くない気がするし
今度カツ定食な杏
何の話ですか？
報酬だよ報酬！
…ふたりとも
助かったわありがとね！
笑おう

第16回
～おにいちゃんといっしょ～




はぁ？
妹が来る!?
…ああ
ずーん
…あいつ僕がサッカー辞めてから心配してさ…
昨日電話でそれ聞いて
なんか今日こっちに着くらしいんだよね…
マジか…
お前…肉親がいたのか…
いるよっ!!
不思議そうな顔しないでもらえますかねっっ
人の形はしてるんだろうな？
あんた人の妹をなんだと思ってるんだよっっ
言っとくけど芽衣はさ
僕とは全然似てなくてしっかりしてる
普通よりちょっとかわいい女の子だよ


——え？
ぴら
何!? その絵!!
それができりゃ苦労しないよ… 僕 実家で調子いい事ばっか言ってたからさ…
それ 自業自得な
——要するに妹の前でいいかっこ見せたいわけだ
話せよ ありのままをさ
そんでおにいちゃんの変態って言われるのな
演劇の事でも話せばいいんじゃないか？
んな事言ったら当日も来ちゃうよ…
欲を言えばもう少しハデなアピールしたいよね
青春をエンジョイしてるって妹に思わせればいいんだろ？
彼女とウハウハやってる所でも見せたらどうだ？
…なら女だな
…僕 彼女いないんすけど…
あんた自分のコトばっかですねっ


バカ 本当に作るんじゃなくてフリだよ フリ
例えばさ――
おーい 智代――っ!!
なんだ おまえか…… なれなれしく呼びかけないでくれないか…
またまたー 照れる事ないじゃん！ 僕の彼女なら当然だろっ？
…そうか 彼女だったか 私は……
僕たちの邪魔をするものなんてひとつもないよねっ
AHAHA
さっ 今日はどこに遊びに行こうか？
あ…
ドキッ
気安く触るなっ
4HIT
5HIT
6HIT
僕 ズダボロになってるんですけどっっ!?
――となるわけだ!!


放課後ーーで
ああああ
あぁ
うぉぉぉ
うぉぉぉぉぉ
しくしくしく
なるほど…
そういうわけでしたか…
…あの 春原さん 気を落とさないでください…
渚ちゃん…
バッ
ーーそっか!! 渚ちゃんなら協力して
ぐはっ
調子に乗るな
死ねっ
だってもう放課後じゃんっ
芽衣が来るのも時間の問題だよ!!
どうしたらいいんだよーー
ぶわっ
だん だん
もう開き直って己の不幸っぷりを見てもらえよ
あんた酷いこと言いますねぇっ!!
あーウゼェ
ーーあの 春原さん



もう一度サッカーをやってみませんか…？
…はは 何言ってるのさ 渚ちゃん
僕 サッカー部ケンカして退部してるんだよ？
あいつらとサッカーする気もないし
大体これからはじめてどうしようってのさ
あ…はい…
──ったく
ブツブツ
────……
…余計な事だったでしょうか？
……


さぁね
渚がそう思ったならいいんじゃないか
気にすんなよ
朋也くんはどう思いますか？
ま 春原の場合
あいつの気持ちの問題だよな
俺は あいつの言ってる事もわかるからな…部には戻れんだろ
…そうですか…
気持ちの問題…
やる気になればそこそこできる奴だからな馬鹿だけど
あの——っすみませ——ん！
あ
ちょっとお聞きしたいんですが…


えっと、
この辺に運動部の寮があるって聞いたんですが
ご存知ないですか？
寮ならすぐそこだぞ
男子寮だけどな
あっ なーんだ！
やっぱりあれだったのかぁ
ありがとうございましたっ！
知らない土地だったので 助かりました
あ…いや
今時珍しいくらい礼儀正しい子だな…
あ！
その制服…
ついでと言ってはなんですが
春原陽平って人知りませんか？
は？



わたし
春原芽衣って
言います
春原陽平は
わたしの
おにいちゃんです
……な
なんだって
っっっ!!?
ガーン
ガーン
ガーン…
ドキ
ドキ
あ…
…あの…
なんでおふたりとも
止まっちゃうん
ですか?
すみません…
ちょっと
驚いてしまって…
あの兄の
妹…
あわわ
わ
不憫だ


──で そんな事 言ってたんですよぉ
そうなんですかっ
あははははははは
芽衣ちゃん それケッサク
!?
ちゃ…っ
ガタたっ
あんたらみんな 人の部屋で 何やってんすか!!
お 春原
おにいちゃん ドコ行ってたのー?
…芽衣 来てたんだ
もー この部屋も 散らかしすぎ! ちょっとしか掃除 できなかったんだからね!!
あと食器くらい ちゃんと洗わないと ダメだよっ! 聞いてる?
ハイハイ わかってるよっ
教科書は 本棚の右上で マンガ本は 左の方で ベッドの下のは そのままにしてるから
ああ… なんか もう…
芽衣ちゃんには 全部見透かされてるな


む
――ったく
芽衣は昔っからおせっかいなんだよね
はあ～あ
お前のせいだろ
いちいちツッコまなくていいからっ
大体 学校はどうしたんだよ芽衣っ!
そ…創立記念日だもんっ!!
ウソつけっ
なんでよー!! おにいちゃんだって人の事言えないでしょ?
むかっ
そりゃそうだけど…
学校休んでまで来る事かよっ
…来る事だもん…
え
――だっておにいちゃんサッカー部辞めてからあんまり帰って来なくなったし
元気なのかわかんなかったし
だからだもん…


芽衣
さて…と
んじゃ
俺らは帰るか
行こーぜ 渚
はいっ
—…!
…わたしもっ
え!?
今日は帰るけど
また来る
からねっ!!
ええっ!?
じゃーねー
おにいちゃんっ
お…
おい
芽衣…っ
パタン…
—…
帰るって…
どこに?
ぽつん
……
いいのか?
芽衣ちゃん


いーんです
思ったより
元気そうだったし
ああいう時は
ちょっと間を
おいた方がいいんです
…あんな
おにいちゃんでも
昔はカッコいい所とかも
あったんですよ
嘘っ
ガーン
朋也くんっ!!
おにいちゃーん
芽衣を
いじめる奴は
許さないぞっ
ただ少し
不器用なだけ…
っていうか…
普段は
あんなでしたけど
サッカーを
やってた時の
おにいちゃんは
みんなから頼られて…
ちょっと
カッコよかったです



芽衣！
見てろよ
にいちゃんが
決めてやるからっ
芽衣！
芽衣っ！
――……
おにいちゃんは
もう……
サッカー
やらないのかな
好きなん
だけどなぁ


ザッ
ザッ
ヘイ！
パスよこせっての!!
ボムッ
ほっ
やりぃっ！ハットトリックゥゥ!!
…アホか…
体育の授業で本気になりやがって…
ぜー
ぜー
だら
だら
春原


あ 岡崎 見た!? 僕の活躍!
――……
お前…サッカーする気はないのか?
はぁ!?
ピイ
それとこれとは別だよ! 昨日も言ったろ!?
そう言うと思ったけどさ
芽衣ちゃんの気持ちも考えてやれよ
ぴく
――芽衣が何か言ってたの?
サッカーやってた頃のお前を誇ってた
――え…
兄貴らしい所見せてやれよ
――……


ひょこっ
来ちゃった
渚さんの話だと部活があるから帰りが遅くなるって言ってたけど…
こそ
こそ
ちょっとくらいいいよね部外者ってわけでもないんだし
ワー
ワー


おにいちゃんが
サッカーしてる姿が
頼もしくて好きだつたんだ
周りから何言われたつて
たつたひとりの
おにいちゃんなんだから
…おにいちゃんの
バカ…
ごし…
――本当は
寂しかつたんだよ
わたし


ゴッ
はっ
危ないっっ
きゃーっ
おい!当たってないか!?
は…
誰だよ今蹴った奴
ん?どこの子だ?
ヘナヘナ
び…びっくりしたよ〜〜っ
あ…わたし部外者じゃなくて
その
春原陽平の妹です…!
春原…?
ぴくっ
おい…春原の妹だって言ったのか…?
あいつの…!?マジかよ
——あ…
ぞろ
ぞろ…



――そういえば おにいちゃんがケンカしたせいで サッカー部は新人戦に 出られなかったって……
知ってるか？
俺たちみんなさ お前の兄貴の方に 恨みがあるんだよ
だけど それは 前のことで――……
どうして!?
くら…
ていうかさ サッカー部であいつを 好きな奴いるかぁ!?
それって 俺ら以外も 当てはまるんじゃ ないっスかね
口だけだしな あいつ！
ヘタレだし
げら げら
救いようのない 馬鹿だよな――
――……う
うう……っ
…ちがう もん……っ
ぼろっ
あぁ〜 泣いちゃった〜
げら げら
だから ウゼーんだよな 春原って


ちがうもん！わたしは知ってるもんっ!!
おにいちゃんは…っ
おにいちゃんはカッコいいもん…っ!!
ざわ…
こんな感じでどうでしょうか？
ああ…いいんじゃないか？
……
ふりっ
春原さん
ほっとこうぜ
でも…



――ん？
なんの音だ？
そういえば
なんなんだよ春原っ!!
と朋也くんっ
この声…
芽衣ちゃんですっ
う
お…っ!!?
ぎゃははははは


冗談だろ⁉
聞いたか？
はははははははは
カッコイイなんて言葉
あいつほど
似合わねぇ奴は
いねぇぞ
おにいちゃん…
おにいちゃん…
ポロ
ポロ
小さい頃
いじめっ子に
いじめられたとき
いつも助けに来てくれた
おにいちゃんは
わたしの
ヒーロー
だったんだ
う…うっ
おにいちゃ…——
お前らぁあっ



芽衣をいじめてんじゃねぇぇぇっっ!!
おにいちゃん…!!
ダッ
うぉおおぉ
…ぐっ
!?
バキィ



くっそ…！
こいつ…やりやがった!!
おいおさえろっ！
おにいちゃん…!!
てめーらさわんなぁっっ
おとなしくしろっての!!
ちくしょおおっ
ドカッ
ちょーしのんじゃねえよっ
!?
ドガッ
でっ
そーゆー事なら手伝うぜっ春原
サンキュー岡崎っ!!
ちっ岡崎まで…っ
まずいっスよ先輩…


ボロッ
バキィ
――くっ
うわ…超ダセー…
なんだありゃ…
何本気になってんの!? テメェら!!
ちょっとした遊びじゃねーかっ
あ
ばーかばーか
ぐすっ
う
ううっ
ぐすっ
ほら芽衣いーかげん泣きやめって
あんな奴ら全然屁でもないぞ?
芽衣のかたきはとったから! な?
ひっく ひっく
――…


…にいちゃんのせいで 怖い思いさせて ごめんな 芽衣
びくっ
こんな にいちゃんで――…
ぼろっ
――…
ちがうもん…
わ…っ
ど どうした!! 痛いのか!?
ちがうよ…っ
痛い思い させて ごめんなさい
すごく…
すごく 怖かったけど
おにいちゃんが 来てくれたから
うれしかったよ わたし…!!
守ってくれて ありがとう


——きっと
寂しかったんですよ芽衣ちゃん
…かもな
おにいちゃん
わしわしっ
何笑ってんの
おにいちゃんは今も芽衣のヒーローだったよ
えいっ
わっ 芽衣!?
おにいちゃん大好き

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック



——覚えているだろうか
あれは渚がまだ演劇部を作る前
これあげますっ
え…いいよ
大切な人の為にと奔走していた少女の事を
どうぞっ
…ごめん今忙しいの
上手くいかないです
次こそ——
あれから数日…少女は——…
あははは
とんでさー
あのっ!! 受け取ってくださいっっ!!
パコーンッ
まだいました



第17回
～風子 再び～


…いってぇぇ〜〜〜っ
お前…風子じゃねぇか
イキナリ何すんだよっ星が見えただろっ!!
――……間違えました…
露骨に嫌そうな顔だなお前…
ヘンな人たちにまた会ってしまいました
最悪です
最悪なのはこっちの方だよっ!!
――ん?
お前…まだそれ配ってたのか?
いけませんか?
ヘンな人には関係ないです
ピイッ



風子はあなた方のようにヒマではありませんもう行きますっ
あ…そ
おっと待ちな!!
そのまま行こうなんてちょっとムシがよすぎるぜっ僕を怒らせた罪は有り金全部で――…
パコッ
こりねー奴だなお前も
ううう…っ!!
…けど今のショックで思い出したよ…
あの子って前に手裏剣くれた子だっけ
こんなの
手裏剣じゃねーけど
まぁそうだな…
ふぅん…なんの為にそんな事してんだろうね
確か…姉が結婚するから――だつけ
相変わらず謎なヤツ…


――それで その生徒は
今でも校舎を さ迷ってる らしいのよ――
ええっ
キャー
キャー
それ 本当なの〜?
ヤダ私 こわい〜っ
本当よー! 見た人も いるんだって!!
おらおら おめーら 邪魔だよっ
あん?
ひいいっ!? 杏…!!
な
なんでも ないッス!! 僕が間違って ましたっ!!
お前 最高に ヘタレな…
なんだ あんたたちか…
ねぇねぇ 知ってる? 幽霊のウワサ
幽霊 だぁ…?
なんでも 2年前にさ ある女生徒が 事故にあったの
なんと その日は 入学式当日…
その女生徒は 入院して間もなく 死んでしまったの…
かわいそうに 未練があるのね



それからというもの
今もその女生徒はこの学校をさ迷ってるって話よ
キャ
キャ
楽しそうな生徒を狙ってるんだって〜
よくあるテンプレ話じゃねーか…
な
び…びびってなんかねえよっっ!!
はははは
……
女ってそういうの好きだよな
ムッ
何よ!本当にあった話なんだからねっ
どう?ちょっと気になったりしない?
はらはら
アホらし
いるわけねえだろんなもん
つまんない男ねぇ——
——ウワサがどうあれそんな事に構っている時間はないのだ
キーーン
コーン
カーン
それでは…
今日はここまでにしましょう


ん────っ
終わったぁ……
んーっ
本番まで
あとちょっとか…
この調子なら
いけそうだな
あ はい…
でもやっぱり
緊張しますね…
ま
なんとか
なるだろ────…
ガラッ
朋也くん?
お前…
──あ…
何やってんだ
こんな時間まで
こらこらっ
逃げるなっ!!



フーーッ!!
フーーッ!!
あーあー
威嚇すんなっ
どうどうどう!
あっ
こいつ
昼間の――!!
春原さんっ
朋也くんも…
いじめたら
ダメですっ!
いじめてねぇよ!!
あっ
ささーっ
こんにちは
また
会いましたね
コク
渚と風子が
ひょんな事から
出会ったのは数日前
その時俺も
その場にいたのだが…
風子は渚には
心を開いてる
ようだった


——あ
そういえば自己紹介もまだでしたね
わたしは古河渚
こちらが朋也くん
春原さんです
伊吹風子です
…あではふうちゃんとお呼びしても——
んな事より
お前まさかこんな時間までやってんのか？
——
これの事ですか？
お姉さんが結婚されるんでしたよね
それを配ってお祝いしてくれる人を捜してるんですか？
うおマジか
へえ、そうなの？
——風子は


風子はお姉ちゃんに幸せになってほしいですから…
皆さんにお祝いしてもらえたら
お姉ちゃんもきっと嬉しいはずです
…いつなんだ？
え？
結婚式だよ いつなんだ？
…もうすぐです
ハァ？ 決まってないのか？
それでももうすぐ近いうちに結婚するんです！
—風子こんな所で油を売ってる時間はないんです
皆さんの分のヒトデを作らないといけませんからっ
さよならヘンな人たち



岡崎だっ！
あっ ふうちゃん！
ダッ
……
ーー何!?
手伝いたいって…本気で言ってるのか？
はい… ダメでしょうか…
ダメも何も演劇もあるだろお前…夢だったんだろ？
…はい
それならせめて見守ってあげたいです ふうちゃんの事
…ああ
まそれくらいなら



――しかし
あいつのやり方で
人が集まるのか
疑問だな…
そ
そんな事は…
あ
伊吹先生…！
こんにちは
渚さん！
お元気でしたか？
はいっ
先生も
お久しぶりです
？
伊吹先生には
わたしが1年の時
お世話になったんです
1年の時…？
こんな人
いたっけ…
…すみません…
わたし ひとつ
年上ですから…


ふふっ
こんにちは
伊吹公子と
申します
あ…ども
岡崎っス
伊吹…
――ん
はっ
――あの
もしかして
妹さんがいたり
しませんか…?
――え…
ドキン
あ
やっぱり
て事は
結婚するって
公子さんの事
だったんすね
と…
朋也くん…!!
先生の
妹さんは…っ
な、
何だよ
――どうして
その事を…!?


確かに 私には妹がいます…
結婚の事も考えています
でもその事はまだ誰にも――
両親にすら話していないんです
――え
…先生に妹さんがいる事は知っていました
わたしもまさかと思ったけど
でも そんなはずないんです
妹さんは2年前…事故で――
今もまだ入院しているんですから
――な…


どういう事だ!?
ふたりとも
ウソなんて
ついてるわけ
ない
…渚は
妹の事を
知っていた
その妹は事故で
入院してるという
――でも
妹＝風子なのは
間違いないのに…
……!!
風子…！
ぴゃっ
フーーッ!!
フーーッ!!
がしっ
あっ
コラ!!
逃げんなっ!!
落ちつけっ！
聞きたい事が
あるんだ!!


お前の姉は伊吹公子って人か？
3年前までこの学校で教えてた人なのか!?
…お姉ちゃんを知っているんですか？
そ…そうなのかっ!?
本当にそうなんだな!?
風子しつこい男性は好みではありません
うるせえっ
……………
ならなんでお前はここにいるんだ…!?
——会えないから
声が届かないから
…だから風子はここにいるんだと思います



…会わないのか？
…はい
どうして！会いたくないのかよ!!
わからない
そんな回りくどい事しなくても直接祝ってやればいいのに
風子には…やらないといけない事があるんです
それが終わってもないのに
ズルはいけませんから
だって 現に声は届いてるんだ
3 - B
ぐす



そう…だったんですか…
ぐすっ
泣くなよ…
俺が泣かしてるみたいじゃねーか
じろ
は…はい…ずびばぜん…っ
ぐす
……
じろ
じーー
かわいそうですふうちゃん…
きっとお姉さんに直接会ってお祝いしたいはずです
あいつ…やらないといけない事って言ってたな…
――受けとってください
俺…？
ざわ
はいっプレゼントです
ざわ
ふうちゃんがそう決めたのならわたしは応援したいです
ま
そういうと思ったよ
ざわっ
…それでですね
今度風子のお姉ちゃんが結婚するんです
だから――…


ああ…
気が向いたらね…
あ…
あのっ すみませんっ
——…
たっ
え？ あたし!?
ふうちゃん…
——ああして ずっとひとりで 願っていたんだ
そして それは これからも——
姉の結婚式まで 続けると いうのだろうか
ひとりきりで


ふうちゃん…っ！
ぎゅ…っ
ふわっ
わたしはちゃんと見ています…！
ふうちゃんの頑張りは今にみんなに届いて…
きっと伊吹先生にも伝わりますっ
ふうちゃん
お姉ちゃんが見てるから
頑張ろうね


…あなたは お姉ちゃんと 同じにおいが しますね
——そう言って 風子は笑った
そして——
あのっ
これ 受け取って くださいっ


…私に言ってるの？
はいっ
それでですね今度風子のお姉ちゃんが――……
ずらーっ
えっと…
なんでこんな事になったんだっけ…
よかったらお祝いして下さい
ええ…
…まあいいじゃねえか
ヒマだろ？お前
そういう問題じゃないよっ!!
なんであの子の行く末を僕らが見守らなきゃなんないのさっ！
すみません…
わたしのわがままでふうちゃんのそばにいてあげたいんです
春原さんも一緒にいてくれると嬉しいですけど…
渚ちゃん…
風子ヘンな人には頼んでませんっ!!
ぷいっ
わかってたけどコイツ…!!
嫌がらせのよーに居座ってやろうかっ
ふうちゃんは恥ずかしがってるだけですからっっ


休み時間のたびに
風子の所へ行った
渚が手伝うと
言うと
自分でしないと
意味ないですから
と風子は
言い
俺たちはただ
見ているだけ
だった
…それでも
ふうちゃんは
ひとりきりじゃ
なくなりましたから
きっと
意味はあるんだと
思います
ひとりでいるのは
辛いですから…
俺は


この風子が
一方で
入院しているとは
とても思えなかった
会いに行きたいのに
行けない理由がわからない
――そうだろう?


公子さん
あ…岡崎さんでしたよね？
そうっス
…渚に公子さんの家はここって聞いて
？
何か御用でしたか？
──風子は…
妹さんは今でも
病院にいますか？
…はい
今日も行ってきたばかりです


…あ
すみません
その
辛い話でしたか…
いえ…
いいんですよ
キュッ
――ふうちゃんは
とても
人見知りのする
子でした
そのせいか
友達もできなくて
いつも
ひとりで――
…でも
入学式の前
言ってくれたんです
頑張って
友達を作るって
嬉しかったです…
――私は
あの子が高校で
楽しく過ごせたら
それだけで
よかったんです
…でも
その日の帰り
ふうちゃんは
事故にあって…
あの子が
帰ってくる事は
ありませんでした



…2年間
あの子は今も眠ったままなんです
――結婚…
しますよね…?
ふるっ
私ひとり…
ふうちゃんを置いて幸せになれません
――そんなの
あいつは望んでない…


――え
あのっ!
……っ
創立者祭にぜひ来てください!
その…
渚があなたに会いたがってましたから…!!
――創立者祭…
こんなに想い合っているのに
会えないなんて誰が決めた!?
はい、
ズルでもなんでもいい
会わせてやりたいんだ
ありがとうございます
急がなくてはいけない気がした



第18回
〜託した想い〜



──はい
はい…
わかりました
それでは
演劇が終わった後
校門の近くで
待ち合わせですね
…はい
ふふ…
楽しみにしてます
それじゃあ
カチャ
祐介さん
…行く事に
したんだな



――はい
せっかくですし
教え子が劇をするそうなんですよ
…それにどうしてでしょうか
話を聞いてると
風子が…
あの子がそこに一緒にいるような気もするんです
――そうか
そいつはいいな
ついでに少しゆっくりしてくるといい
はい――…
プルルルル
プルッ


カチャ
…もしもし――
え…
ふうちゃんが…――!?
はいっ
…はいっ
今すぐうかがいます
そこの方っ
あのっ これ受け取ってください!!
ドーンッ
――……
あ…気を落とさないでください ふうちゃんっ
次はきっと大丈夫ですから!


はい…頑張ります
ふうちゃん…
…気のせいかな
なんか今日はシカトされまくってる気がするんだけど
ああ…
風子ちゃん頑張ってるのにさ
なんか腹立つよなこういうのって
さっきの奴知り合いだ
ちょっとどういうつもりだか聞いてくるよ
おい…余計な事すんなって


――たくっ
…でも
確かに春原の
言うとおりだ…
状況は風子に対し
どんどん悪くなっていた
昨日まで
話を聞いてくれた人が
今日は見向きもしない
――そんな事が
何度かあった
あの子は
2年間…
ずっと眠ったまま
なんです…
――明日になれば
創立者祭で
公子さんが来てくれる
そこで ふたりを
引き合わせれば…



大丈夫…
きっと うまくいく
そう 信じるしかない
あれ？ 朋也くん ひとりですか？
ああ…
春原なら ヤボ用だ
――…
…風子が 叩きすぎて しまったから でしょうか…
――え
…あいつは んな事 いちいち 気にするような 奴じゃねぇよ
風子が こんなに弱気に なるなんて…
そうですよ 春原さんも ふうちゃんを 応援してるはずです…！
そう… でしょうか…
悪い方に 考えるなよ…
あいつ 気まぐれなんだ またひょっこり 戻ってくるって



そんな事より明日は創立者祭だぞ風子っ！
今までダメだった奴もお祭りなんだ
お前の話だって聞いてくれるさ…！
そうでしたふうちゃんっ
わたしもできる限り一緒に頑張りますから…っ
——創立者祭……
はい…頑張ります
ふうちゃんっ
ふう
状況が悪くなってもここまでやってこれたのは渚のおかげだろう
俺はまだ何もしていない
早く公子さんに会わせてやろう
そうすれば
俺のこの不安な気持ちもぬぐいされるはず——…



パンッ
パ
パ
～よみがえれ元気！解放へ～
パン
ざわ
ざわ
公子さんっ
どんっ
うわっ
悪いっ
ざわ
気をつけろっ
何やってんのオマエ
ぎゃははははは
ざわ



岡崎さん！
来てくれてありがとうございます…！
えっと渚はちょっと遅れてるんですが…
はい大丈夫ですよ
懐かしくて来てよかったと思ってた所です
それならよかったです
――俺がここで公子さんと待っていれば渚が風子を連れてくる…そういう事になっていた
姉妹の対面までもうすぐ――…!!
…演劇
え？
演劇見ました
あ ああ――
…いやまぁ一時はどうなるかと思ったんですが…
ふふ素晴らしい劇でしたよ
古河さんは頑張り屋さんでしたから…
――…
ええ…



たくさんのハンデを強いられる事があってもじっくり ねばり強く解決していく――……
古河さんはそんな生徒でした
今日はその成果が見られてとても嬉しいです
それは古河さんの強さと言えますから
はい……
そう思います
…渚もうすぐ来ると思いますから…
公子さんに見てほしい
――そして今もそんな中で頑張ってる奴がいる
大切な人に喜んでほしいと
ただそれだけを願い続けてきた風子の事を


あと少しで
それが叶う――…
…そういえば
岡崎さん
こんな噂を
知っていますか？
え…？
あの子が…
この学校に
今もいるという
噂です


その子は今でも校舎を駆け回って…
友達も作って毎日を楽しく過ごしている——…
そんな噂です
——でも…
どうしてそんな噂が出たのかわかりません
あの子は今も…
病院のベッドで眠っているのに——…
…そんな
だって今…
目の前に…!!



こ…公子さん——
目の前にいるのに…!!
——でも
でももしそれが本当なら——…
夢の中で友達を作って毎日を過ごしているのでしょうか…
…そ
そんな…
どうして——…
——会えないから
声が届かないから
風子はここにいるんだと思います


公子さんには…風子の事が見えていない───…
───あ…
───そうだ…言ってたじゃないか
…友達でした…
風子はそれがわかっていたんだ
馬鹿だ俺…!!
だから自分の想いを人に託していたんじゃないか…
目の前にいるのに教える事ができないなんて…!!
ふうちゃん…
ありがとうございます
…そう言ってくれると思いました
あの子はあの日友達を作ると言って出て行きましたから
…例え夢の中でも楽しく過ごしていてほしいんです───…


……
…夢の中だけなんて辛いじゃありませんか…っ
…岡崎さん…
―3日前病院から連絡があったんです
ふうちゃんの容態が変わったと…
2年間変わらなかった容態が…です
…え
ふうちゃんは呼吸が停止しました
もう…目覚める事なんてないって…
そう聞きました


ずっと目覚める事がないのなら…
せめて夢の中だけでも幸せな夢を見ていてほしいじゃありませんか…
…そんな…
じゃあ風子は…
!!
風子は最初から知っていたんだ…!!
自分の事も容態が変わる事も全部——!!
それでもなお公子さんの幸せだけを願って——!!
こ…公子さん…っ


お願いですっ!!
彼氏と結婚してください!!
——え…
…でも
そうです先生…っ 結婚してくださいっ
きっと…きっと 妹さんなら こう思ってるはずですっ
先生の幸せが 自分の幸せだって…!
自分の為に 先生が幸せを 掴めないなんて 知ったら きっと 悲しみますっ!
ふうちゃんの 為にも 結婚してください…っ
古河さん…
——それは 公子さんの目に どう映っただろう
渚…
風子は確かに ここにいるんだ…


…不思議ですね…
…今まで そんな風に 考えた事も なかった…
私だけが 幸せになったら あの子はひとり 取り残されてしまうと…
——ずっとそう 思っていたのに
本当に あの子が そう思って くれているような 気がします
——わかりました
私 幸せになります
先生…！
公子さん…
——いや… まだだ
それだけじゃ 風子の想いは 伝わらない
風子が あれだけ 苦労した想いが



そうだ！公子さん
結婚式は学校でやってくれませんか!?
――学校でですか…？
…私が昔教えていた職場なのでそうなったら嬉しいですけれど…
でもそんなの――…
俺がなんとかします
大丈夫ですから…
だからお願いします
――そうだ風子が願っていたのは自分の代わりに祝ってもらう事…
学校以外だと難しいはず
岡崎さん…
――…
わかりました
じゃあ…！
でも…この問題は私ひとりの問題じゃありませんので――
後日というわけにいかないでしょうか…？



──あ…
はいっ
ありがとうございます…！公子(こうこ)さん
──…
ぐす
──これでよかったのだろうか…
カラ…



…おひとりですか？
ああ…今日は色々あったからな
渚は疲れが溜ってたからオッサンと一緒に帰ったよ
渚は残りたがってたけどな
そうですか…
お前…最初から言ってたのにな
悪い
…悪かったな今日――
――はい
岡崎さんは人の話を聞かない上に黙ってあんな事するなんてフェアじゃありませんっ
ポイ

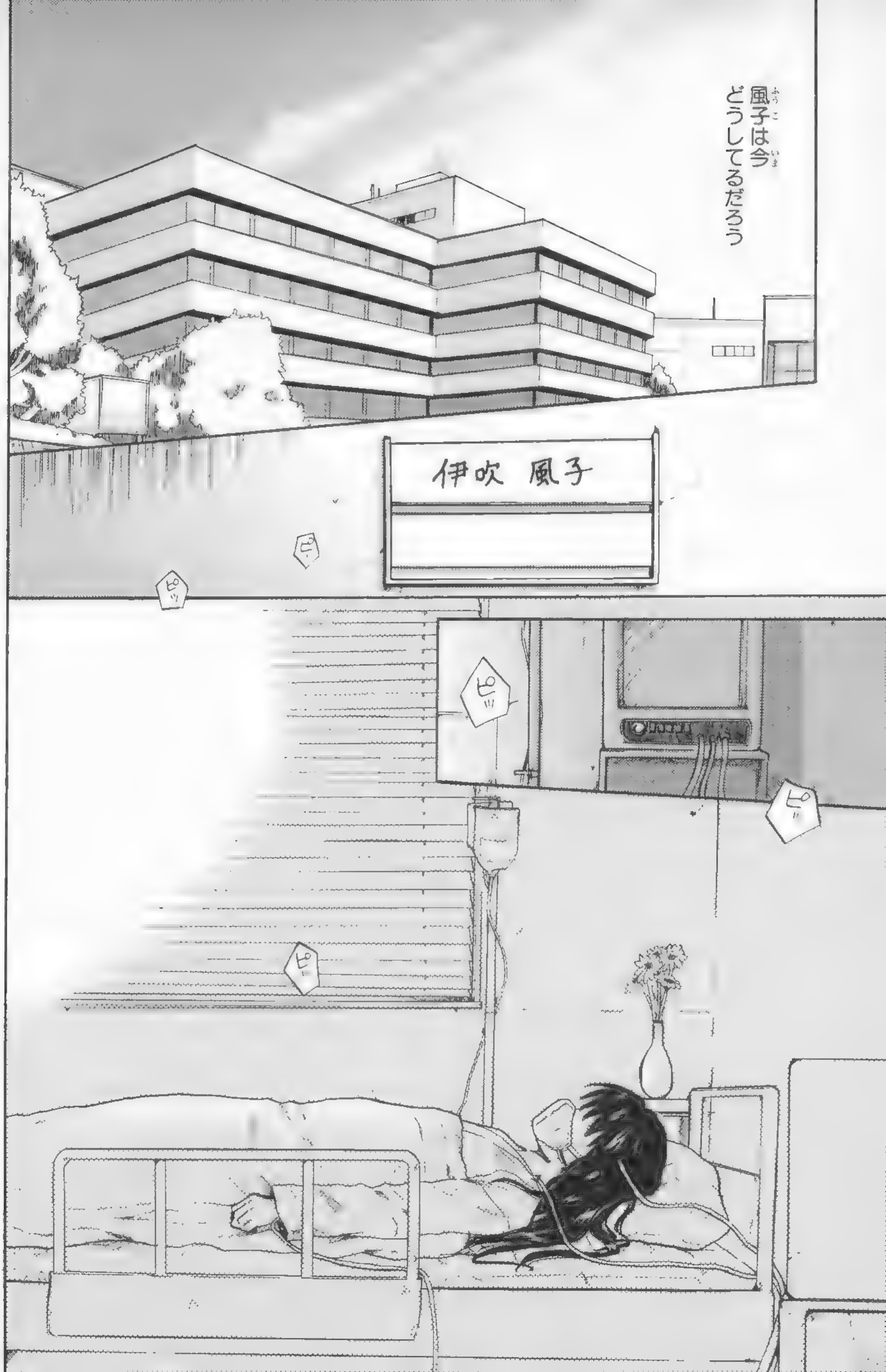

…いいさ なんとでも 言ってくれ
――…
――でも
お姉ちゃんが 結婚を 決めてくれましたから…
それで 許してあげます
――これで
よかったのだと 思いたい
ぽん
…楽しみだな 結婚式…
きっといい 式になるぞ
………
…そんなの 決まってます


きっと大勢に祝福される
とびっきりの結婚式です
辛い現実を知ってなおここに居続ける風子
俺にできる事なんてほとんどない
このまま時が過ぎるのを待つのか――……
なあ風子
お前はいつまでここに居られるんだ…？
よいしょ
おい仁科…！
はい？
ジイさん――…
いや幸村見なかったか？


──む
珍しい奴が来おったの…
ジイさん！
なんじゃ岡崎
お前の方から来るなんて良くない事の前触れかの…
あんた伊吹先生って知ってるだろ!?
この学校に3年前にいた先生だ!!
伊吹………
ふむ──……
…あれは胸毛のたくましい先生じゃった…
違う!! それじゃないっ
女だ!! 美人の先生だっ
ビシッ
──ああ その伊吹先生なら良く覚えとる…
なんせこれまでに美人だと思った先生はひとりしかおらんからのぅ…
フォフォフォフォ
あんた…
他のヤツに聞かれたら大変だぞ…


実はその公子さんが結婚すんだよ
ほうめでたいの…
だろ?
それで結婚式をこの学校で行いたいんだ
…ほう…そりゃまた…
もちろん本人の了解をとってる!あとは学校側の許可だけなんだよ
──でその面倒事はわしに……というわけじゃな…
頼むよジイさん!!
あんたなら校長にだって口出せるだろ!?
…しかし…
学校側はなんと言うかの気が進まんの
んなモン関係ないだろっ相手は公子さんだぜ!?
ふむ…
まあ…おぬしも在学中とはいえ結婚できる年か…
いつ俺が結婚すると言った!!!
カッ
なんじゃい違うのか
なら安心だの
ホッホッホ


そういう事なら任せておけ
なんせ公子さんの結婚式じゃからの…
このジジイ…だから渋ってやがったのか…
いや…っ! 絶対だからな! あんたにかかってるんだぞ
——早く決まるといい
なに 校長などわしに比べりゃぺーぺーだからの
——…
ここは幸村に任せれば安心だろう
頼むぜ…ジイさん
皆の気が変わらないうちに
想いがなくなってしまわないうちに——…


風子は今
どうしてるだろう
伊吹 風子
ピッ
ピッ
ピッ
ピッ
ピッ



風子参上
CLANNAD
オフィシャルコミック
第19回
〜祝福の日〜


えっ
本当ですか…!?
ああ
結婚式は今週の日曜日だ
学校側の許可が出たのがその日だったんだが
公子さんに伝えたら大丈夫って――…
…まぁ俺じゃなくて幸村が上手くやってくれたんだけどさ
そうですか…
日曜日にはおねえちゃんが…
ホワ〜
あ
――と
こうしてはいられません!
風子は行ってきますっ
ガタッ
え
また配りに行くのか?
当然ですっ
お祝いしてもらえるならひとりでも多い方がいいですからっ!!


ああ…わかったよ
創立者祭が終わって数日後
渚が熱を出して休んでしまった
失言かっ
今までは渚のフォローがあったからこそ風子はここまで頑張ったんだ…
今は俺だけしかいない
朋也くんふうちゃんをお願いします
ちゃんとついてやらないとな…
あの…これどうぞっ
実は今度風子のおねえちゃんの結婚式なんです
だからお祝いしてくれませんかっ
お願いしますっ
……
でもずっと考えていた


公子さんの話が
本当なら
ここにいる風子は
なんなんだろう
あの…!
今週の
日曜日なんです
公子さんには
見えなかったけど
俺は見える
この学校で
結婚式が
あるんです!
!
声だって
聞こえているし
もちろん
会話だって普通にできる
…風子
この階は あらかた
配り終えたんじゃ
ないか?
上の階に
行こう
…あ はい
そうします
それが
とても不自然な事だとしても
信じられなかった
とぼ
とぼ


その日は
渚がいなかったからか
1日配っていたのに
ほとんど見向きも
されなかった
ガチャ
おい
入るぞ
がばっ
うわっ
ビックリした!
せめて
入る前に言えよなっ
いつものコトだけどさっ
そんな事より
春原
そんな事ですますな!!
なんでお前
あれから
来ねーんだよ
じゃあ
なんなんだよ
…いや なんか
ややこしい事が
あってさ…
わけわかんねーよ
——…
それって
風子ちゃんの事?
ああ
…別に
面倒だからって
逃げたわけじゃないよ
——話せよ


……——……
話せって!
…あの時
目の前で風子ちゃん
シカトした奴が
いただろ?
——ああ
で
僕も腹立ったからさ
追いかけて聞いたんだ
何シカト
してんだよって
そしたら——……
ああ…
オマエが
見えたからな
何だとっ!?
なんだよ
何か用
だったのかよ?
用があるのは
僕じゃねえよ!
いただろ!?
小っさい子がっ
話しかけてたけど
お前が
無視したんだろ!?
え…
——いや…
話しかけられたとか
そんな覚えないな…
小っさい子って
あれか?
あれって岡崎の女
なんだろ?
はぁ!?
その隣にいた
子だよっ!!
!?
だから
そんな子
覚えてねーって
急いでんだよ俺ら
じゃーなっ



…あいつらには風子ちゃんが見えてなかったってこった
頭のオカシイのは どっちだ？
僕か？ あいつらか？
そこにいた全員か？
さて ここで問題だ
──もういい…
その後 気になって色々聞いてみたんだよ
そしたら 1年に伊吹風子なんて子はいないんだ
いたけど その子は2年前に事故で──…
…なんだよっ そっちが聞いてきたんだろ！
うるせえっ 誰がそんなの信じるんだよ
もういいって言ってんだろっっ!!
ばっ
…なら
僕 確かめに行ってもいいか
色々聞いたからな 隣町の病院に入院してるらしいんだ その子



――なんて
行かねぇよ
言ってみた
だけだって
マジになるなよ
岡崎っ
チッ
……
アホか…っ
余計な事
しやがって…!!
おー――い
岡崎ー
知らなくて
よかったんだ
本当の事なんて
本当の事を
知ってしまったら…
公子さんのように
風子の姿が
見えなくなって
しまうんじゃないか
――そんなの
あまりにも
むくわれないじゃ
ないか


俺にはもう
時間が過ぎるのを
待つ事しか
できないというのに
――……
今日も
おひとり
なんですか
――ああ
渚はまだ
熱が下がって
ないしな
春原は
ほっとけよ
あんな奴
…俺だけじゃ
不満そうだな
なんだよ
!
いえ…
そういうわけじゃ


…学校終わったら
渚んとこに見舞いにでも行ってみるか？
——あ…
コク
そっか
んじゃ行こうな渚も喜ぶぞ きっと
きゅっ
よう何してんの岡崎
春原か…
ろうかの真ん中で何ひとりでブツブツ言ってるんだよ
まいいや
それより僕さっきすごい不思議体験しちゃったよ！
——まさか
病院に…っ!?
え？ あれ？ 言ったっけ
——そんな…!!


いや～ なんか気付いたら 病院の前で つっ立ってたんだよね
何しに行ったのかとか 全然 覚えてなくて――…
本当の事を 知ってしまったら どうなる？
そんなの決まってる
不自然な存在が 排除されるんだ
記憶喪失って こんな感じ なのかな
岡崎 僕 なんか 言ってた？
――こんな… 嘘だろう!?
ばっ
風子っ!!
…行かねえって 言ったじゃねえか…
ふうこ？
――この…っ!!



思い出せよ！
風子が…一緒にいただろ…っ!!
思い出せよっ!!
――…
…いや
わかんねえよ 岡崎…
そんなの風子がかわいそうすぎるじゃないか…！
それがきっかけだった
え… 木製の彫刻？ なんの事…？
風子と話した奴 彫刻を受け取った奴 噂話をしていた奴まで――
へ 幽霊？
ふぅん アンタって そういうの 信じてるんだ
とにかく 風子に関する全ての事が ゆっくりと消えていった


立ち止まって話を聞く人もいなくなった
そうして不自然な事はなかった事になる
くそ…これじゃまるでつじつま合わせだ…
どうすればいい？どうすれば…
結婚式は明日なのに
こんなとき渚なら
そうだ渚なら…
風子の事を誰より想っていた渚なら きっと
…ただいま
渚…起きてるか？


…ふうちゃん！
ああ…見舞いだよ
…こんにちはお邪魔します
ホッ
こんにちは来てくれて嬉しいです
具合悪いんですか
えっと少しなら大丈夫ですから…
よかった
まだ時間は残ってる
ふうちゃん…
きゅっ
わたし…不安なんです
——なんだか
ふうちゃんが遠くへ行ってしまう気がして…



ヘン なんです
そんなはず ないのに…
――渚
どうして こんなに 悲しくなるんで しょうか…
あの…
これ 触ってると 和みます…
…泣かないで ください
ふうちゃん…
…渚
明日は 公子さんの 結婚式だ
…布団の中から でもいい 祝っててくれ
――はい
――ありがとう 渚


なぁ風子
お前…まさかずっと学校に寝泊まりしてたのかよ…
別に風子怖くなんかありませんから
そりゃそうだろうけど
せめて一言言ってくれれば対処のしようがか…
ブツブツ
でも今日は
今日は岡崎さんもいるので少し楽しいかもしれないです
そっか…
その日は学校に泊まった
渚の辛そうな顔は見てられなかったから
ああー
そして話し疲れていつしか眠ってしまったのだと思う
隣にある温もりを感じながら――…



——— 何か　大事な事を忘れている気がするんだ



残っているのは　温もりと　感覚だけ



結婚――……
…そうか
公子さんの結婚式だ……
公子さんと知り合って…
創立者祭にも来てもらったっけ
俺は公子さんの事が好きだったから
なんでそんな大事な事忘れてたんだ――……
たっ
――あれ でも公子さんとはなんで知り合ったんだっけ?
…そうだ 渚の先生なんだった
それで毎日4人で――…
あれ?
そこから先が よく 思い出せない
結婚式は教室の一室を使ったとてもささやかなものだった
新郎新婦と新婦を知る教師たち
そして生徒はたった自分ひとりだけ


公子さんが
かつて教鞭をふるった場所で
ふたりは永遠の誓いを交わす
公子さんは綺麗で
相手の男も嫉妬するほど
かっこよかった
とても
お似合いの
ふたりだった
皆さん
本当に
ありがとう
ございました
色々と
良くして頂いた
幸村先生…
岡崎さんも
いや 俺は
公子さんが
幸せなら
それで…
一生懸命だった理由は
それだけだったろうか?



式は数時間とかからず終わった
ザワ
ザワ
たっ
先回りだ
一番前で見送ってやる
たたっ
……?
ざわ
ざわ
…なんだ?
ざわ
ざわ
―あ
ざわ
ざわ


わっ
ご成婚おめでとう
……!!
だからぁ すげー美人なんだって 新婦さん!
マジかよっ 早くこねーかな～
紙吹雪どうする? 全部いっちゃっていいよねー?
オオオオ
よっしゃー ひとつ盛大に祝ってやろうぜーっ
なんか マジかっこいい んだって!!
――ああ ひとつだけ覚えている


俺だけじゃない……
おめでとう
この幸せな風景を見たがってた奴がいた
――それがもう誰のものだったかわからないけれど
あ 来たぞ！
おめでとうございますっ
おめでとうっ
お幸せにーっ
おめでとうっ
おめでとーっ！
それをずっと待っていた奴が確かにいたんだ


…色々な事があった気がする
そいつも俺も必死に頑張っていた気がする
公子さんが祝福の中で笑っているそんな光景が見たくて——
もう思い出せないけれど
視界が揺らいだ気がした


――え
ふう…ちゃん…？



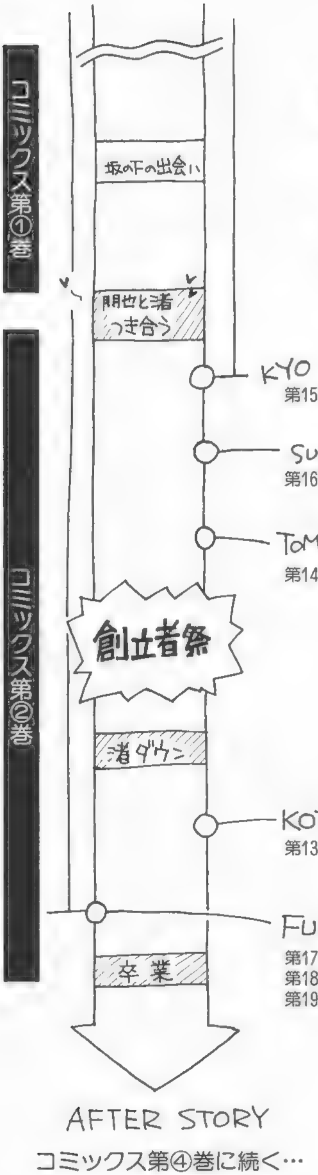
おめでとう
おねえちゃん
いつまでも
いつまでも
お幸せに
ずっと ずっと
幸せに――……
……
ふうちゃん…
それは
たくさんの
想いが見せた
一瞬の奇跡


あ
岡崎さん
…その荷物
ええ…
引っ越す事にしたんです
え…
ふうちゃんのそばにいようと思って
…それは
もちろん
マイナスな意味じゃなくてです
その方が
私が幸せ
だからですよ


――結婚式の日
ふうちゃんの姿を見た気がしました
おめでとうって言ってくれました
あの時届いた想い
だから私はあの子の元に行ってありがとうって言います
祐くんとふたりであの子が幸せだって思うくらいに私も幸せになります
ええ…きっと幸せだって思うはずです
さらに新たな想いになる
私この町が好きです
いつか必ず戻ってきたいと思います
3人で



[CLANNADオフィシャルコミック③・完]





CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック③

丸わかり！ 各話時系列

今回の単行本は各ヒロインたちを主役に迎え、1・2巻の裏で進んでいたストーリーをまとめたものです。ここでは、各話を1・2巻の時間軸に沿って並び替えてみましたので、読み返す際の参考にしてください。

クラナド
よんこま



※2・3コマ目、Wikipediaより引用






春原芽衣(中3)
ただ今兄の部屋の掃除中
勝手に洗濯機とか使っちゃってもいいんですよねっ?
ケホ
はー…なんでこんなすぐちらかしちゃうんだろ
てき
ぱき
…大変だなああいう兄を持つと
いえ…もう慣れましたから
おにいちゃんのウソで私が親に怒られたり…勝手に私の自転車壊したりとか…そんなのもよくありましたけど
確かに小さい頃よくそれが理由でいじめられたりもありましたけど…
でももう慣れましたから
お前息すんな
ひぃっ!?
死ねって事ですか!?
あ おにいちゃん


わあっ
これホントに風子がもらっていいんですかっ!?
渚の家にあった
ああ…渚んちから持ってきたんだ
つーか お前ほんっとガキな
本当に失礼です! 風子だって最近大人の階段を昇ったりしました!
ニヤニヤ
へぇ〜そりゃどんな階段だよ
風子 岡崎さんと寝ました
※19話参照
…朋也くん…
待てっ 違う! んなわけない 誤解だっ!!
やってねぇ!!
そんな目で見るな!!

専攻は美術です

ありがとうございます!!



こんにちは、みさきです。あっという間に3巻です。

連載当初、とりあえず1巻を目標に頑張っていたのがウソのようです…　いやめでたい!

全3巻かと思いきや、まだまだ続きます。

次巻からやっとアフターに入れそうなので

実際まだ折り返し地点といった所でしょうか…。

やれる所までつき進む覚悟はできました。　ひぃ怖い…

もうしばらくお付合下さると嬉しいです。

ありがとうございました!!

★SPECIAL Thanks★

なつのさん、轟さん、あすらくん、まりも、いっちゃん、担当の高部さん、千原さん

そして Keyスタッフ様…!

いつもありがとうございます!

CR COMICS

CLANNAD（クラナド）オフィシャルコミック③

●2006年12月15日　初版発行

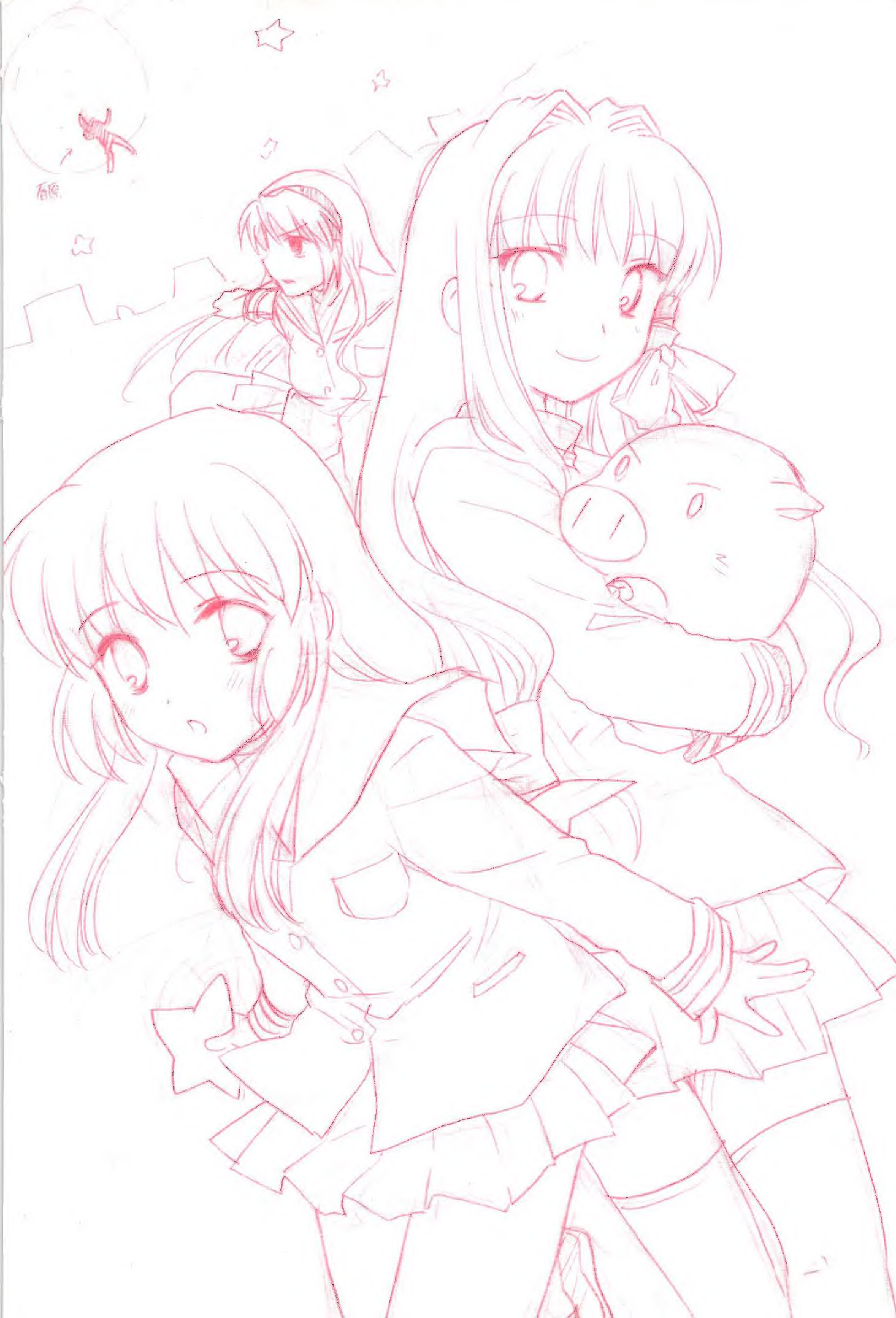
著者●原作：Key（キー）
漫画：みさき樹里（じゅり）

発行者●石川順恵
発行所●ジャイブ株式会社

〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1
●編集／TEL:03(5367)2744
●営業／TEL:03(5367)2725　FAX:03(5367)2709
●注文センター／TEL:049(274)1653　FAX:049(259)5244
●ジャイブHP:http://www.jive-ltd.co.jp

印刷所●図書印刷株式会社
電植製版●株式会社オノ・エーワン

初出●月刊COMIC RUSH 2006年6月号～2006年12月号掲載
デザイン●sio
制作協力●有限会社パルプライド（喜多村・和田・深井・千原）


春原.

9784861763618
ISBN4-86176-361-4
C0979 ¥562E
1920979005624
ジャイブ
定価 本体562円 +税



手作りの木片を高校中の生徒に配り歩いている少女・伊吹風子には、木片を受け取る代わりに"自分の姉の結婚を祝ってほしい"という願いがあった。風子の姉への想いを知った渚が応援する一方で、徐々に風子に関する驚愕の真実が明らかになっていく……。他、ことみ編、智代編、杏編、春原編を収録。